

キノコ形土製品で蓋をした土器を発見

田屋遺跡は、市内北部の石鳥谷町大瀬川地区にあります。ここは、南東へ流れる葛丸川左岸に広がる段丘の西側にあたり、北側は薬師堂川により区切られる地形です。

本遺跡の発掘調査はこれまで2度行われています。昭和41・42年には、大瀬川小学校(現：大瀬川振興センター)東側にあった畑を水田化する際に岩手大学により調査が行われ、縄文時代中期中頃～後期中頃(約4,500～3,500年前)の竪穴住居跡1棟や直径3.5m程度の円形に川原石を並べた配石遺構2基が見つかりました。

その後の平成12年には、大瀬川公民館(現：同振興センター)の建設に伴って石鳥谷町教育委員会により調査が行われ、同じ頃の貯蔵穴(食糧を蓄えた穴)や内部に集石のみられる土坑(お墓か)が見つかりました。また縄文土器・木の実などを潰したり粉にする用途や狩りに使う石器・土偶やキノコの形をした土製品・石製品など多く見つかりました。

田屋遺跡